

## 第4回 くれよん組の報告

【日時】平成20年12月6日(土)午後2時から午後4時

【場所】市役所 本館6階 大会議室

【内容】(1)ハード面のバリアフリーについて  
(3)その他

【出席者】メンバー19人  
ほか 職員

### 1. ハード面のバリアフリーについて

#### 【本日の議題】

ハード面のバリアフリーについて、これまで挙がった意見をもとに、鉄道事業者などへ提案する内容について話合うこととしました。

車いすの通れない狭い歩道を拡幅することや、駅に大型のエレベーターを設置することなど必要なことはたくさんありますが、これらは莫大な費用がかかったり、用地買収が必要となったりして実現には時間がかかります。くれよん組では、だれもが外出しやすい社会となってほしいという思いから、障害のある人が実際に必要だと感じていることをわかってもらうおうと、短期間で実現できるものやコストの低いものなどなるべく実現しやすいものについて議論しました。

ソフト面のバリアフリーについては、残りの会議で議論を尽くすことが難しいため、ハード面について議論しました。次年度に引き続き議論を行うかどうかは今後決定します。

## 【主な意見】

<p>➤ <b>交通機関について</b></p> <p>鉄道</p> <p><b>必要なもの 転落防止柵、点字ブロック</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 慣れた駅でもちょっとした方向間違いで転落などの事故が起きてしまいます。転落防止にはやはり柵をつけてもらうことがいちばんの対策となります。障害者だけでなく、高齢者や子どもにとっても安全です。コストがかかりますが、最終的には全駅に設置してほしいです。</li><li>・ 電車側とホーム側が分かるような点字ブロックの敷き方を全国的に統一してほしいです。</li></ul>
<p><b>必要なもの 赤色灯</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 聴覚障害者への情報提供手段として電光掲示板も必要ですが、文字を読む時間がないこともあるため、路線バスで既に採用されているような、電車が近付いてきたことを回って知らせてくれる赤色灯が必要だと思います。</li></ul>
<p><b>必要なもの 車いす利用者や視覚障害者にも使いやすい券売機</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ タッチパネル式の券売機は視覚障害者には使いづらいので、音声案内機能付きの券売機が必要です。</li><li>・ 車いす利用者には、券売機の蹴りこみや、ボタンの位置を低くすることが必要です。</li></ul>
<p><b>必要なもの 駅入口を示す音声案内</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 視覚障害者が駅に行ったときに、駅の入口がわからないため音声等で知らせてほしいです。</li></ul>
<p><b>必要なもの みんなの見守り</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 視覚障害のある人が一人で歩いていると、“大丈夫”と見られることが多いですが、事故を防ぐためには周りが気をつけていかなければなりません。</li><li>・ 線路に転落しそうな人を見かけたら、“危ないですよ”と声をかけることが必要だと思います。点字ブロックの外側を歩いていて、転落しそうな人がいたら内側を歩くように声をかけることも必要ではないでしょうか。</li><li>・ 障害者であっても、健常者であっても、白杖を持っている人のことを見守り、危ないときは声かけすることが必要です。</li></ul>
<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅の券売機は定期券の購入ができるなど多機能になりましたが、複雑で分かりにくくなったように思います。</li><li>・ 窓口で切符を購入する時に駅員さんが少ないため時間がかかり、乗りたい時間の電車に乗ることが出来ないことがあります。</li><li>・ 知的障害のある人が定期券を落としてしまったとき、駅の掲示板に“拾得物”のお知らせとして掲示されましたが、“拾得物”の意味を理解できなかったため返却されるまでに時間がかかってしまったと聞いたことがあります。“落とし物”などの容易な表現や、絵で情報を表現する「ピクトグラム」などを用いて、だれにでも分かりやすい情報提供をしてほしいと思います。</li><li>・ 駅員の人数が朝・昼・夜で差があります。バリアフリーが整っていない駅の場合</li></ul>

合、車いす利用者が駅を利用するためには駅員の助けが必要なので、夜に駅員の人数が少ないと駅を利用したくても利用できなくて困ります。

- ・ 車いすが通れるような広めの改札口は大抵 1 つしかありませんが、他の客が駅員と話していたり、IC カード利用者が利用するなどなかなか通れなくて困ることがあります。

## バス

### 必要なもの 車内における車いすの固定

- ・ 車いすの輪留めが片手で持ち上げられるくらいの重量しかありません。止め具の重量が軽いと、カーブや急ブレーキの際に車いすが動いて大変怖い思いをします。また、後ろにヘルパーさんに立ってもらって車いすが動かないように支えてもらわないといけなくなりますので、重量のある輪留めを使用してほしいです。
- ・ 車いすに乗っている人のためのシートベルトを運転手を使用しないことがあります。走行中に車いすが動かなくてすむのできちんと使用してほしいです。

### 必要なもの 介助者に負担の少ないスロープ

- ・ 三段式のスロープでは、途中で段差があってヘルパーが車いすを押すのが大変です。スロープの構造による影響で力が抜けてしまい、上がることが出来ないことがあるので、介助者が楽に上げられる 1 段式のスロープを使ってほしいです。

### 必要なもの 車いすでも乗降可能な停留所

- ・ バス停によっては車いすで乗降できるスペースがなかったり段差があったりするため、降りたい駅で降りられないことがあります。どこでも降りられるように考えていただきたいです。
- ・ 同じ停留所の場合でも、行きに乗ることができても、帰りに降りることが出来ない停留所があって困ります。

### その他

- ・ バスが停留所に到着する時に、クラクション等だけでは聴覚に障害のある人が気づくことが出来ないので、停留所に文字情報が流れる掲示板を設置してほしいです。
- ・ 車いす利用者がバスから降りる際、スロープを置けない場所に無理にスロープを置くことがあります。バックするなどによりきちんと対応してほしいです。
- ・ 運転手の対応がバラバラのように感じます。社内教育及び指導を徹底してほしいです。

## ➤ その他

### 必要なもの 路面と対照的な色の点字ブロック

- ・ 点字ブロックの色は黄色など路面と対照的な色が見やすいのですが、最近は美観重視のためか、グレーの点字ブロックが多くなっています。弱視の人は点字ブロックを頼りにしていますので、グレーだと見つらくて困ります。夜間に光る点字ブロックがあるといいと思います。

上記以外にも、JR 八尾駅周辺について放置自転車対策、歩道の段差解消及び側溝のフタ設置による安全性確保の必要性を求める意見や、障害児が普通学級で共に学ぶために早期に校舎へのエレベーター設置を進めてあげてほしいという意見が挙がりました。また、視覚障害のある人に声かけをした際に拒否された経験により、困っていそうでも声かけしづらくなったという体験談から、障害者側にもマナーが必要だとの意見が挙がりました。ほかに、老人大学に通う参加者から車いすで利用する際の駅の利便性を調査しているという取り組みの紹介などがありました。

## 2. その他

### (1) 障害者フォーラムについて

企画中のイベントについて、経過を報告しました。

### (2) 第5回くれよん組会議の日程

3月7日(土) 午後2時から 市役所 本館6階604会議室